

研究課題名	【Web 会議番号 2019_03】 血清 microRNA を用いた好酸球性食道炎の新規バイオマーカーの確立
フリガナ	オオシマ ナオキ
代表者名	大嶋 直樹
所属機関（機関名） （役職名）	国立病院機構 浜田医療センター 消化器内科 医長
本助成金による発表論文，学会発表	2019/06 第 97 回日本消化器内視鏡学会 ワークショップ 7：消化器内視鏡診療におけるトランスレーショナルリサーチ 「microRNA の網羅的解析を用いた好酸球性食道炎のバイオマーカーの探索」 他 1 報投稿中

研究結果要約

好酸球性食道炎（EoE）は遅延型食物アレルギーの一つであり、食道粘膜に多数の好酸球が浸潤し慢性炎症が惹起される病態である。近年、患者数は急激に増加傾向であるが、診断、治療に関しては未だ確立されていない部分が多い。これまでに、我々は食道粘膜局所における microRNA（miRNA）に着目し、内視鏡下に生検した食道粘膜の網羅的解析を行うことによって、欧米との発現プロファイルの相違やどのように病態形成に関与しているのかを明らかにしてきた。

そこで、本研究では未治療の EoE 患者を対象に、血清 miRNA 発現を網羅的に解析し、非侵襲的なバイオマーカーになり得るのかを検討した。その結果、粘膜局所と同様に血清においても EoE 患者とコントロールの間で明確な miRNA 発現パターンの相違を認め、miRNA の発現プロファイルも極めて欧米と類似していることが明らかになった。これは EoE の病態は、本邦と欧米で人種差はなく同一の機序である可能性を示すものであった。加えて、特定の miRNA は EoE の診断や治療における非侵襲的なバイオマーカーの候補となり得るものであった。しかしながら、食道粘膜での miRNA 発現プロファイルとの類似性は認めなかった。以上の結果から、本研究により EoE 患者における血清 miRNA 発現の意義を示すことができた。